

山陰海岸ジオパーク国際学術会議

「城崎会議」を開催

10月29日と30日の2日間、山陰海岸ジオパークで初めての国際学術会議を城崎町で開催しました。「地球科学とツーリズム」をテーマに、全国からジオパークや地学の関係者約120人が参加しました。

■基調講演(海外から)

アジア太平洋ジオパークネットワーク(APGN)
コーディネーター
イブラヒム・コモオ(マレーシア)

世界ジオパークのこれまでの経緯を説明。市民の活動から広がったヨーロッパのジオパークに比べ、行政主導による手法が多いアジアのジオパークでは、住民活動の盛り上げが課題である。また、ジオパークは地質の保全と経済発展との両立や、文化や教育での活用も重要な要素である。



中国香港世界地質公園上級
ジオパーク専門官
楊家明(香港)

一般の日本人より日本のジオパークをよく見ている。山陰海岸ジオパークも今回で4回目になる。
香港ジオパークでは、12歳が理解できることを基準に説明を行っている。ジオガイドは3年ごとの再審査。看板は正確性や分かりやすさを確保するため、ひんばんに書き直している。



■ 基調講演(国内から)

JGC委員の中田節也さんは、「自然災害を学ぶ場としてのジオパークの重要性」について、東日本大震災に触れながら、大地の変動を体感し、自然災害に正しく対応することの大切さを訴えました。



JGC事務局の渡辺真人さんは「日本におけるジオパーク活動・これまでの経緯と今後の展望・」について、各地域の情報交換と、住民の相互交流によるノウハウ共有の大切さを語りました。



山陰海岸ジオパークのほかに、糸魚川(新潟県)、天草御所浦(熊本県)、島原半島(長崎県)の国内の各ジオパークからの研究報告と、いわて三陸ジオパーク構想への東日本大震災の影響が報告されました。



会場内には、観光、学術、防災など、いろいろな角度からのジオパークの研究報告がポスターとして掲示され、参加者はそれぞれ興味のあるポスターを食い入るように見ていました。



「災害・ジオツーリズム・地域連携」をテーマに、同協議会学術部会長の三田村宗樹さんがコーディネーターを務め、JGC委員や大学教授らが熱い討論を繰り広げました。



■ 研究報告

■ ポスターセッション

■ 総合討論



▲主催者である井戸敏三兵庫県知事のあいさつで会議がスタート

2015年の第4回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウム開催誘致を表明

山陰海岸ジオパーク推進協議会(会長 豊岡市長)は、国際学術会議に出席していたAPGNコーディネータのイブラヒム・コモオさんに、第4回APGNシンポジウム開催誘致の文書を手渡しました。



※JGC…日本ジオパーク委員会の略称。日本におけるジオパークの公式認定機関